

令和7年度 評価項目の達成及び取組状況

今市幼稚園

分野	評価項目	評価の着眼点	自己評価		学校関係者評価	評価結果を踏まえた今後の取り組み
			達成及び取組状況	評価	評価	
			達成及び取組状況をふまえ、成果と課題等を明らかにし、自己評価する。その際、必要に応じ、保護者アンケートの結果も含める。	評価基準により段階評価を行う。	評価基準により段階評価を行う。	自己評価及び学校関係者評価をふまえた改善策や次年度の目標を具体的に示す。
教育課程・指導	①学年・学級経営	教職員は、教育目標の達成を目指した学級経営を行っているか。	○教育目標に基づいた学級経営案、毎月の指導計画を作成し、幼児期に育てたい10の姿を捉えながら保育実践に取り組んだ。反省・評価をしながら改善に努め、学期末に「育ちの姿」として保護者へ発信している。 ○保護者アンケートでは、A、B評価で100%を占めており、各担任が目指す幼児像に向け、園の特色を生かした保育実践に努めていることが読み取れる。	4	4	・教育目標を基に学級目標を設定し、指導計画に基づいた教材研究や環境の構成の工夫をする等、ねらいを明確にもった保育の展開に努める。 ・今後も反省、評価、改善を加えながらよりよい学級経営に努める。架け橋期のカリキュラムと毎学期に発行している「育ちの姿」をより関連させたものにする。
	②幼児理解	教職員は、一人一人の幼児の発達や課題を捉えて保育を行っているか。	○園内研修の実施や日々の記録から多面的に幼児の発達等を理解し、指導計画や学級経営につなげ保育に取り組んでいる。また、指導計画を基に補助教諭等と共通理解をし、課題を捉えながら成長を支えるよう努めた。○個人懇談、学級便りの活用等、様々な方法で保育のねらいや成長の姿を家庭に知らせ、また、年中児発達相談事業、連絡ノート等で保護者の思いを把握し、理解や課題の共有を図っている。	3	3	・保育記録会や子どもを語る会などを通して、一人一人の幼児の成長の過程、発達の課題を捉え、幼児理解を深める。教職員間の連携を強め、共通理解のもと望ましい支援に努める。 ・年中児発達事業、個人懇談、保護者からの行事の感想等を活用し、保護者と共に子どもの成長を共有し、連携を図っていく。
	③特別支援教育	特別な支援を必要とする幼児の実態や課題を明確にし、計画的・組織的に指導を行っているか。	○特別な支援を必要とする幼児の実態把握に努め、教具や安心して過ごせる環境作り、学級とのつながり等、個に応じた支援の工夫に努めている。また、特別支援教育コーディネーターが中心となり、「語る会」を毎月実施し、職員間の情報交換や幼児理解、支援の検討等に取り組んでいる。○家庭や関係機関、就学先との丁寧な連携を図り、支援のあり方や保護者の思いを共有し、保育に生かしている。	4	4	・今後も特別な支援を要する幼児へのよりよい支援について、特別支援教育コーディネーターを中心に職員・保護者と共通理解を図りながら取り組む。 ・保護者の思いや願いを受けとめ、専門機関、関係機関、就学先との連携を密に図っていく。
	④人権・同和教育	教職員は、自らの人権感覚を磨き、幼児に人権意識の芽生えを培うように配慮しているか。	○人権・同和教育を保育の根底に据え、一人一人を大切に学級経営に努めている。幼児が安心感をもって自己発揮し、また、相手を思うことのできる心や態度が育つよう、職員自身の言動やまなざしに留意した関わりや保育実践に努めている。○職員は人権・同和教育に関する研修会に積極的に参加し、自身の人権感覚を磨くよう努めている。人権教育講演会を実施し、保護者にも啓発を行っている。	3	4	・幼児一人一人の人権を尊重し、互いに認め合い、育ち合えるよう温かい集団づくりをしていく。 ・園内外の研修に参加し、教職員自身の人権意識を磨く努力をすするとともに、職員間で伝達し合い、共通理解を図っていく。「自分ごと」として考えていけるような研修会を企画するなど、保護者への啓発に努める。
	⑤行事	教職員は、行事を幼児の発達を促す機会と捉え、工夫、改善しているか。	○職員間でねらいを明確にし、幼児の育ちや生活の連続性、保育の充実につながるよう共通理解を図り取り組んでいる。行事後は反省・評価を行い常に改善を図っている。○保護者に行事を行う意図や、取組の過程を通した発達の姿、成長等を伝えることで行事への理解を深めてもらった。保護者アンケートではA・B評価で98%を占め、一定の理解が得られていると読み取れる。	4	4	・今後も幼児の発達を促し成長の機会となるよう努め、反省を行うことで工夫や改善を加えていく。
	⑥保幼小連携	近隣の小学校等との連携を密にし、なめらかな接続に努めているか。	○校区内校長・園長会、保幼小連絡会、保幼小交流会を通し、園児・児童の実態や様子について情報交換をし、互いの教育についての理解を深めている。昨年度に続き、架け橋期カリキュラム作成に向けて連携を図りながら取り組んでいる。 ○保幼小交流の日、授業の見学の他に、今年度は校区内5園の年長児と1年生の交流会を実施した。年長児にとって、より就学への期待をもつことができた。	3	3	・交流や意見交換を計画的に行い、幼児・児童の実態や指導のあり方などについて互いの理解を深め、小学校への滑らかな接続に努める。架け橋期のカリキュラム作成に引き続き取り組み、完成を目指す。
家庭・地域との連携	⑦家庭・地域との連携	幼稚園と保護者、幼稚園と地域（未就園児等）との協力関係はできているか。	○年3回の個人懇談、タイムリーな便りの発行、連絡帳活用や送迎時の対応など細やかな連携に努めている。 ○地域行事への参加、地域の方との交流等を通し、地域との連携を積極的に図っている。主任児童委員との連携による子育てサロンの開催や、地域の方の多大な協力を得ながら茶道、蕎麦打ち、和菓子作り等、地域の文化に触れる取組を行っている。今年度は陶芸、今市の町探検も保育に取り入れ、園児にとって豊かな体験活動となった。	4	4	・次年度も幼稚園、保護者、地域との連携推進を図り、保育の充実を目指す。幼稚園からの発信について一層工夫していく。
研修	⑧研究・研修	教職員一人一人が、園内外の研究・研修の機会を自己研鑽の場として受け止め、進んで研究・研修に取り組んでいるか。	○各自が様々な研修会に積極的に参加し、自己研鑽に努めた。研修内容を園内で共有し、保育や執務に活かすようにしている。 ○計画的に互いの保育を見合う園内研修会を設け、環境の構成や教師の援助について話し合うことで幼児理解や保育の工夫につながっている。園内研究会では講師を招き、研究の取組や教師の援助について学びを深めることができた。	3	3	・研修を通して園全体の保育の質や職員の資質向上に努める。全職員が参加しやすく、互いに学び合える機会や内容について工夫していく。
組織運営	⑨園務	教職員は、他教職員と協働し、計画的に園務を遂行しているか。	○園務分掌における各担当者は、早めの計画、全職員への周知を図るよう工夫を重ね、協力・連携を図りながら業務の遂行に努めている。職員数が多く、勤務時間の異なる職場において教職員アンケートがA・B評価合わせて100%であることから協働して行うことができていると読み取れる。	4	4	・今後もコミュニケーションの促進を図り、職場の活性化を図る。互いに助け合い、協力し合える教職員集団となるように努める。 ・計画的な園務の執行に努めると共に、業務の効率化について工夫をしていく。
安全管理・保健管理	⑩危機管理	園の危機管理及び幼児の安全や衛生の管理体制を全教職員が理解し、適切な対応に努めているか。	○避難訓練(火災、地震、浸水、引き渡し)に加えて、救命救急研修、不審者対応の防犯研修、誤飲対応研修を行った。職員が臨機応変に対応できるよう様々な状況を想定して訓練を行っている。特に今年度は防犯対策に注視し、施設等の環境面を整え、職員がより危機管理について意識するように働きかけた。保護者アンケートでは昨年度に比べA評価が20%増えた。保健管理は養護教諭が中心となり、感染症予防、健康管理に努めた。	3	4	・次年度は、より様々な状況を想定した避難訓練を行い、職員の危機管理意識を高め、臨機応変な対応力を身に付けていく。 ・適宜、安全管理・保健管理等についての情報や取り組みを保護者へ伝えることで安心感をもてるようにしていく。
教育環境整備	⑪園地・園舎・遊具等の施設・整備	園地・園舎・遊具等の施設・設備を定期的に点検し、必要な改善・管理を行っているか。	○毎月「安全の日」を設け、チェック表を基に施設、設備の点検を行い、不具合が見つかった場合は早急に対応し、修繕に努めている。 ○園地、園舎、遊具等の管理について尽力しているが老朽化が否めない箇所もあり、引き続き改修に向けて施設課に働きかけていく。 ○今年度は遊具や藤棚の修繕工事、大人トイレの一部改修、北側玄関照明の設置など環境整備に尽力した。昨年度に比べ、保護者アンケートのA評価が約15%増えた。	3	4	・日々の観察や毎月の安全点検を細やかにし、危険箇所については必要な改善を図り、速やかに対応することで教育環境整備に努める。

※評価基準 4：十分達成している 3：概ね達成している 2：改善を要する部分がある 1：大いに改善を要する